

令和2年度 教育事務の点検・評価報告書 (令和元年度対象)



竹富町ホームステイ事業



竹富町小学校集団宿泊学習

竹富町教育委員会

報 告 書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第26条の規定に基づき、令和元(平成31)年度における竹富町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価の結果を報告する。

令和2年8月

竹富町教育委員会

■地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

■竹富町教育委員会で扱う事務は、おおむね次のとおりである。

- 1 町立学校等の設置及び統廃合に関すること。
- 2 学級教材、教具の整備に関すること。
- 3 町立学校等の施設、設備及び管理、備品に関すること。
- 4 教育財産の管理及び財産台帳の整備保管に関すること。
- 5 教育委員会事務局及び教育委員会の所管する職員の任免その他、人事に関すること。
- 6 文化財に関すること。
- 7 町史編集に関すること。
- 8 学齢児童、生徒、園児の就学猶予並びに転退学、その他学籍に関すること。
- 9 教科書の採択、給与事務に関すること。
- 10 町立幼稚園に関すること。
- 11 学校給食に関すること。
- 12 社会教育に関すること。
- 13 生涯学習及びスポーツの振興に関すること。
- 14 青少年の健全育成に関すること。

目 次

はじめに	3
教育委員会委員名簿	4
外部評価委員(学識経験者)	4
教育主要施策体系	5
教育委員会の活動	6
(1) 教育委員会の概要	6
(2) 教育委員会の会議等の状況	6
(3) 教育委員の情報収集状況	11
(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置	11
(5) 教育費の状況	12
令和元(平成31)年度 教育事務の点検評価	13
1 点検評価対象年度	13
2 点検評価内容	13
(1) 幼稚園、学校教育の充実	
(2) 社会教育・スポーツの充実	
(3) 伝統文化の保存と継承	
(4) 町史編集	
(5) 教育行政の充実	
3 点検評価の方法	14
事務事業点検評価	15
点検評価の結果一覧表	15
・事務事業点検評価シート	16
教育事務点検総合評価	44
教育委員会の機能充実	44
幼稚園・学校教育の充実	44

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の一部が改正され、平成27年4月1日より施行されています。

教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るとともに、地方に対する国の関与の見直しを図ることが目的とされております。

そこで、法律第1条第3項の規定に基づき、本町の教育及び文化の振興に関する大綱を次のとおり定めました。

その基本理念・基本目標は、「日本最南端の大自然と文化のまちづくり(島々の自然が生きる町づくり、島々の文化が息吹く町づくり、島々の発展とともに未来にはばたく町づくり)」を町政運営の基本姿勢のもと、活力ある人材育成の現実、生きがいのある豊かな生涯学習社会の実現に向けた教育及び文化の振興を目標に教育行政を推進してまいりました。

- 自ら学ぶ意欲と豊かな心の育成
- 子育て支援などの課題への対応
- スポーツの振興
- 伝統文化の継承発展及び文化活動の支援

令和元(平成31)年度は多くの事務事業を実施し、効果的な教育行政の推進と、教育活動の状況に関し、町民への説明責任を果たすため、教育事務の点検及び評価を行い、この告書にまとめました。

報告書は、点検・評価の客観性や中立性を確保するため、各担当課職員が事業執行概要等を評価シートで作成し「事務点検評価委員会」による内部評価を行い、その後、外部評価委員(学識経験者等2名)が担当職員にヒアリングを実施し、各事業の評価をしていただきました。

■教育委員会委員名簿（令和元年度在籍）

（令和2年3月31日現在）

職 名	氏 名	任 期	
教育長	仲 田 森 和	平成30年10月1日～令和3年9月30日	任期3年 (2期目)
委 員 (教育長職務代理)	島 村 賢 正	平成27年10月1日～令和5年9月30日	任期4年 (2期目)
委 員	花 城 正 美	平成30年10月1日～令和4年9月30日	任期4年(2期目) R1.5.31付け辞職
委 員	西 表 一	令和元年7月1日～令和4年9月30日	任期4年(1期目) 前任の在任期間
委 員	上勢頭 輝	平成29年4月1日～令和5年3月31日	任期4年 (2期目)
委 員	仲新城 理香	平成30年10月1日～令和4年9月30日	任期4年 (2期目)

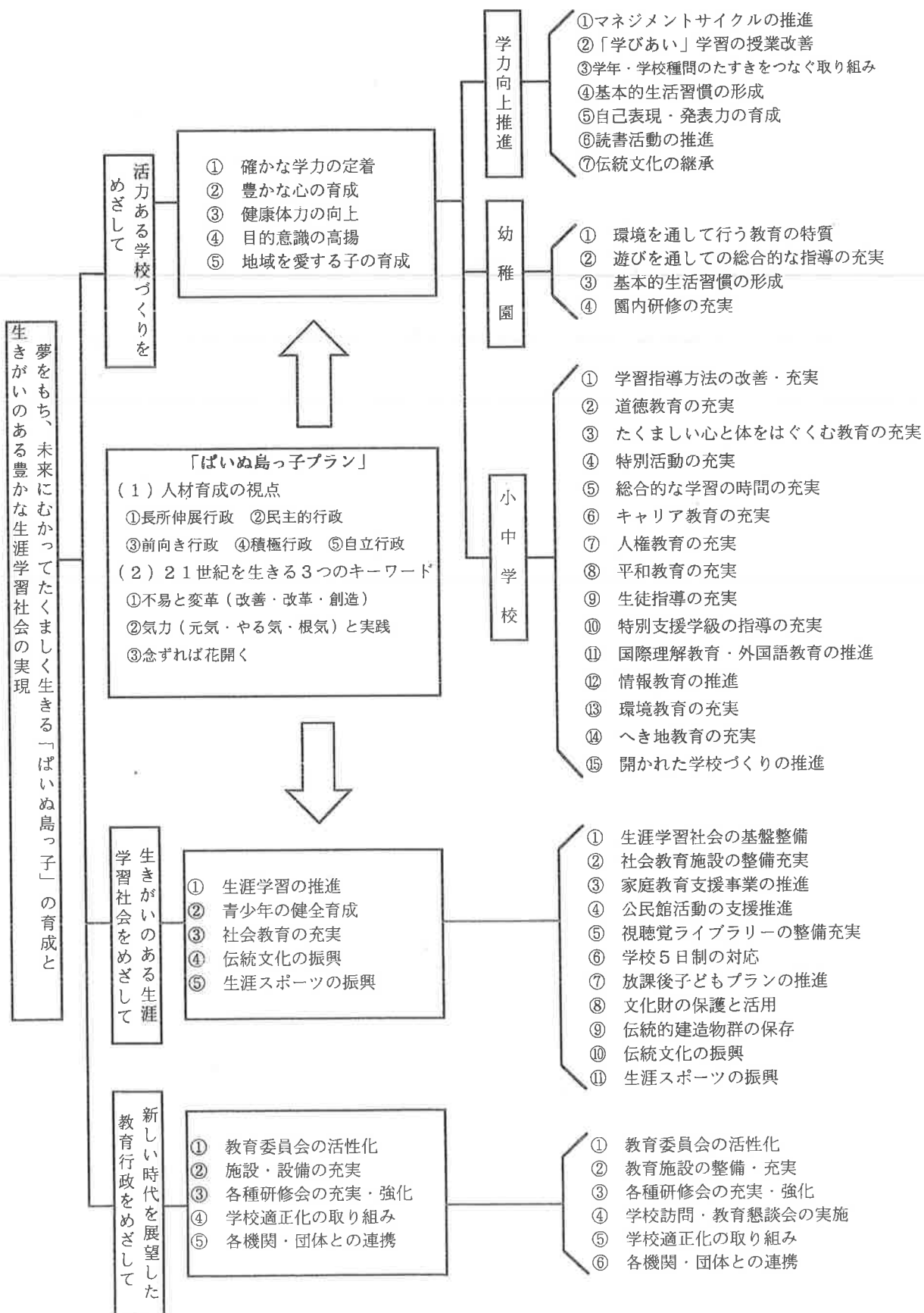
■外部評価委員(学識経験者)

職 名	氏 名	任 期	
委 員	佐事 安弘	令和2年8月1日 ～ 令和3年3月31日	任期1年 (2期目)
委 員	石垣 幸子		任期1年 (2期目)

【目標】

【努力点】

【努力事項】



1 教育委員会の活動

(1) 教育委員会の概要

教育委員会制度の改革により、平成27年10月1日より教育委員長と教育長を一本化した「教育長」が設置され、教育長と委員(4名)で組織する合議制の実行機関であります。

また、総合教育会議が首長と協議・調整を行うが、最終的な執行権限は教育委員会に保留されている。

教育長は、教育委員会の会務を総理し、教育委員会の代表(会議の主宰者、具体的な事務執行責任者、事務局の指揮監督者)となり、その任期は3年となっている。

(2) 教育委員会の会議等の状況

本町教育委員会においては、奇数月1回の定例会と随時開催の臨時会の開催と自主研修を実施し、事務局と連携しながら施策を推進してきました。

さらに、学校訪問や各種行事、視察等を積極的に行うなど、教育行政の推進に努めてまいりました。

また、沖縄県市町村教育委員会連合会や八重山地区市町教育委員会協議会の総会・研修会等へ参加し、県内各地区の教育委員と意見交換を行い、教育委員会が直面する課題解決のため、教育行政について研修を実施してまいりました。

地方教育行政法第26条及び「教育長に委任する事務等に関する規則」第2条の規定に基づき76件審議いたしました。

総合教育会議については、令和元(平成31)年度においては未開催となっている。

令和元(平成31)年度の会議開催、付議事件及び内容は次のとおりであります。

	開催数	付議件数
定例会	6回	73件
臨時会	2回	3件
計	8回	76件

■会議開催状況、付議内容

開催回数	開催日	番号	議案名	結果
第4回 (定例会)	令和元年 5月29日	報告第14号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可1)	承認
		報告第15号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可2)	承認
		報告第16号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可3)	承認
		報告第17号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可4)	承認
		報告第18号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可5)	承認
		報告第19号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可6)	承認
		報告第20号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可7)	承認
		報告第21号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について	承認
		報告第22号	臨時代理について	承認
		報告第23号	臨時代理について	承認
		報告第24号	臨時代理について	承認
		報告第25号	臨時代理について	承認
		報告第26号	臨時代理について	承認
		議案第 5号	竹富町立小中学校体験入学実施要項の制定について	可決
		議案第 6号	竹富町海洋教育副読本編集委員会設置要綱の制定について	可決
第5回 (定例会)	7月29日	報告第27号	竹富町社会教育委員の委嘱について	承認
		報告第28号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可8)	承認
		報告第29号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可9)	承認
		報告第30号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可10)	承認
		報告第31号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可11)	承認
		報告第32号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第33号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		議案第7号	招致外国青年就業規則(JETプログラム及びJETプログラムによらない参加者)の規則の一部改正	可決

開催回数	開催日	番号	議案名	結果
		議案第8号	令和2年度竹富町小学校及び中学校教科用図書の承認について	可決
		議案第9号	令和元年度町費負担職員の人事異動について	可決
第6回 (定例会)	9月27日	報告第34号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可12)	承認
		報告第35号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可13)	承認
		報告第36号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可14)	承認
		報告第37号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可15)	承認
		報告第38号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第39号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第40号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第41号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第42号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第43号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第44号	竹富島歴史的景観保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第45号	竹富町歴史的景観形成地区保存計画書見直し策定委員の委嘱について	承認
		報告第46号	臨時代理について	承認
		報告第47号	臨時代理について	承認
		議案第10号	鳩間島留学制度実施要項の一部改正について	可決
		議案第11号	鳩間島留学制度運営委員会規約の一部改正について	可決
第7回 (定例会)	11月27日	報告第48号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可16)	承認
		報告第49号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可17)	承認
		報告第50号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可18)	承認
		報告第51号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可19)	承認
		報告第52号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		議案第12号	幼稚園管理規則の一部改正について	可決
		議案第13号	預かり保育条例施行規則の一部改正について	可決

開催回数	開催日			
令和2年 第1回 (定例会)	令和2年 1月29日	報告第1号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可20)	承認
		報告第2号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可21)	承認
		報告第3号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第4号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第5号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第6号	臨時代理について(預かり保育条例施行規則一部改正)	承認
		議案第1号	令和2年度町費負担職員人事異動について	可決
第2回 (臨時会)	2月18日	議案第2号	令和2年度県費負担管理職人事異動発令について	可決
		議案第3号	令和2年度町費負担職員人事異動について	可決
第3回 (臨時会)	2月28日	議案第4号	新型コロナウイルス感染症に伴う小中学校臨時休校について	可決
第4回 (定例会)	3月30日	報告第7号	臨時代理について	承認
		報告第8号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可22)	承認
		報告第9号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可23)	承認
		報告第10号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可24)	承認
		報告第11号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可25)	承認
		報告第12号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可26)	承認
		報告第13号	竹富島重要伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の許可について(許可27)	承認
		報告第14号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第15号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第16号	竹富島伝統的建造物群保存地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第17号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第18号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		報告第19号	竹富島歴史的景観保全地区における現状変更行為の回答について	承認
		議案第5号	竹富町教育委員会嘱託員設置規則の廃止について(規則2号)	可決
		議案第6号	竹富町教育委員会嘱託員の報酬及び費用弁償に関する規則の廃止について(規則3号)	可決

開催回数	開催日			
		議案第7号	招致外国青年就業規則(JETプログラム及びJETプログラムによらない参加者)の一部を改正する規則について(規則4号)	可決
		議案第8号	竹富町学校給食における食物アレルギー対応実施要項の制定について(告示2号)	可決
		議案第9号	竹富町社会教育指導員設置規則の一部を改正する規則について(規則5号)	可決

(3) 教育委員の情報収集状況

教育委員会は、施設等の視察、学校訪問、事務局からの教育行政情報収集、専門知識収集のための研修会等への参加、ほか市町村教育委員会の情報収集及び課題解決の方向性模索のための教育委員会連合会及び教育長協会などへの参加などを通して教育関連情報の収集に努めた。

	内 容	件 数
1	課題施設等の視察	0件
2	学校等支援訪問(施設)	小中学校8、幼稚園2、
3	研修会等への参加	14回 (町内1、市内8、本島4、県外1)
4	学校等行事への参加	入学式、卒業式、運動会、 学習発表会、その他
5	会議等への参加(教育長)	44回 (町内5、市内30、本島5、県外4)
6	その他 (教育委員会月報、時報市町村教委)	

(4) 教育委員会事務局の組織及び職員配置

課名	職名	係名	人員
総務課	課長1 課長補佐1	総務係	2 (1)
		施設係	2 (0)
教育課	課長1 課長補佐1	教育係	5 (7)
社会文化課	課長1 課長補佐1	社会教育係	1 (0)
		文化財係	3 (1)
		町史編集係	1 (1)
合計	6		14 (10)

()は再任用、臨時、ALT等

(5) 教育費の状況

■教育費の推移

項目／年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31(令和元)年度
教育費	1,033,551 千円	1,144,295 千円	1,438,787 千円	1,793,248 千円	1,431,315 千円
1人当たり教育費	248,390 円	275,867 円	326,848 円	425,041 円	337,734 円
各年度3月末人口	4,161 人	4,148 人	4,402 人	4,219 人	4,238 人

■平成31(令和元)年度教育費の内訳

(歳入)

1	分担金及び負担金	87 千円
2	使用料及び手数料	7,745 千円
3	国庫支出金	21,029 千円
4	県支出金	244,644 千円
5	財産収入	152 千円
6	寄付金	500 千円
7	繰入金	7,476 千円
8	諸収入	15,877 千円
9	町債	296,500 千円

(歳出)

(上段は繰越分)

1	総務管理費	21,290 千円
2	沖縄振興特別推進交付金事業	27,879 千円
3	教育総務費	130,426 千円
4	小学校費	12,889 千円
5	中学校費	35,364 千円
6	幼稚園費	9,406 千円
7	社会教育費	143,364 千円
8	保健体育費	64,876 千円
9	文教施設災害復旧費	0 千円
10	基金費	646 千円

■令和元(平成31)年度の主な事業(教育関連)

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 竹富町海洋教育推進事業 | 8 幼稚園預かり保育 |
| 2 ホームステイ事業 | 9 特別支援教育支援員配置事業 |
| 3 学力向上推進 | 10 外国語指導助手(ALT)の配置 |
| 4 英語サマースクール | 11 学校給食担当者研修会 |
| 5 小学校集団宿泊学習 | 12 児童・生徒の心と体を育む支援事業 |
| 6 ICT支援員派遣事業 | 13 離島高校生修学支援事業 |
| 7 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営 | 14 ふるさと応援奨学金 |

(2) 社会教育・スポーツの充実

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 放課後子ども教室委託事業 | 4 球技大会 |
| 2 生涯学習委託事業(社会教育学級) | 5 やまねこマラソン大会 |
| 3 社会教育団体育成補助事業 | 6 全国離島交流中学生野球大会 |

(3) 伝統文化の保存と継承

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 文化財の美化・保全(一括交付金事業) | 4 伝統文化活動の推進 |
| 2 埋蔵文化財の保護 | 5 芸術文化活動の振興 |
| 3 伝統的建造物群保存地区の景観保全 | 6 シمامニの普及推進事業 |

(4) 町史編集

- 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 学校施設等の維持管理

令和元(平成31)年度 教育事務の点検評価

1 点検評価対象年度 令和元(平成31)年度

2 点検評価内容

点検評価内容については、教育事務点検評価委員会による内部評価及び学識経験者等による外部評価とし、「幼稚園・学校教育の充実」、「社会教育・スポーツの充実」、「伝統文化の保存と継承」、「教育行政の充実」について行った。

(1) 幼稚園・学校教育の充実

- 1 竹富町海洋教育推進事業
- 2 ホームステイ事業
- 3 学力向上推進
- 4 英語サマースクール
- 5 小学校集団宿泊学習
- 6 ICT支援員派遣事業
- 7 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営
- 8 幼稚園預かり保育
- 9 特別支援教育支援員配置事業
- 10 外国語指導助手(ALT)の配置
- 11 学校給食担当者研修会
- 12 児童・生徒の心と体を育む支援事業
- 13 離島高校生修学支援事業
- 14 ふるさと応援奨学金

(2) 社会教育・スポーツの充実

- 1 放課後子ども教室委託事業
- 2 生涯学習委託事業(社会教育学級)
- 3 社会教育団体育成補助事業
- 4 球技大会
- 5 やまねこマラソン大会
- 6 全国離島交流中学生野球大会

(3) 伝統文化の保存と継承

- 1 文化財の美化・保全(一括交付金事業)
- 2 埋蔵文化財の保護
- 3 伝統的建造物群保存地区の景観保全
- 4 伝統文化活動の推進
- 5 芸術文化活動の振興
- 6 シマムニの普及推進事業

(4) 町史編集

- 1 町史編集事業

(5) 教育行政の充実

- 1 学校施設等の維持管理

(6) 教育事務点検総合評価

- ・ 教育委員会の機能充実
- ・ 幼稚園・学校教育の充実

3 点検評価の方法

評価については、事業種目ごとに点検評価シートを作成し、評価基準を設定して、複眼的視点による評価を試みた。評価における評価基準及び総合評価基準については次のとおりとする。

(1) 評価基準

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い。	投入コストに比べ活動量が非常に高い。	成果が非常に高い。	事業規模拡大が望まれる。
3	教育委員会が関与する妥当性が高い。	投入コストに比べ活動量が高い。	成果が高い。	事業規模の維持が望まれる。
2	教育委員会が関与する妥当性が低い。	投入コストに比べ活動量が低い。	成果が低い。	事業規模の縮小が望まれる。
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い。	投入コストに比べ活動量が非常に低い。	成果が非常に低い。	廃止又は休止が望まれる。

(2) 点 数

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

教育事務点検評価

令和元年度教育事務(平成31年度事業)点検評価の結果一覧表

主要施策	事業名	担当課	内部評価	外部評価	ページ
幼稚園・学校教育の充実	1 竹富町海洋教育推進事業	教育課	A	A	16
	2 ホームステイ事業	〃	A	A	17
	3 学力向上推進	〃	A	A	18
	4 英語サマースクール	〃	C	C	19
	5 小学校集団宿泊学習	〃	A	A	20
	6 ICT支援員派遣事業	〃	A	A	21
	7 鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	〃	A	A	22
	8 幼稚園預かり保育	〃	B	B	23
	9 特別支援教育支援員配置事業	〃	B	B	24
	10 外国語指導助手(ALT)の配置	〃	A	A	25
	11 学校給食担当者研修会	総務課	A	A	26
	12 竹富町児童・生徒の心と体を育む支援事業	〃	A	A	27
	13 離島高校生修学支援事業	〃	A	A	28
	14 ふるさと応援奨学金	〃	A	A	29
社会教育・スポーツの充実	1 放課後子ども教室委託事業	社文課	A	A	30
	2 生涯学習委託事業(社会教育学級)	〃	A	A	31
	3 社会教育団体育成補助事業	〃	A	A	32
	4 球技大会	〃	B	B	33
	5 やまねこマラソン大会	〃	A	A	34
	6 全国離島交流中学生野球大会	〃	A	A	35
伝統文化の保存と継承	1 文化財の美化・保全(一括交付金事業)	〃	B	B	36
	2 埋蔵文化財の保護	〃	B	B	37
	3 伝統的建造物群保存地区の景観保全	〃	B	B	38
	4 伝統文化活動の推進	〃	A	A	39
	5 芸術文化活動の振興	〃	B	B	40
	6 シマムニの普及推進事業	〃	A	A	41
町史編集	1 町史編集事業	〃	B	B	42
教育行政の充実	1 学校等施設の維持管理	総務課	B	B	43
教育事務点検総合評価	・ 教育委員会の機能充実	-	-	-	44
	・ 幼稚園・学校教育の充実	-	-	-	44

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町海洋教育推進事業	担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	0 千円	13,065 千円	12,674 千円
事業概要	島嶼型海洋自治体である本町の児童生徒が、海洋についての理解と関心を深め、将来にわたり海洋の恵沢を享受できるよう海洋教育を推進する。		
(1) 対 象	竹富町内各小中学校		
(2) 目 的	海洋教育を通して竹富町への理解を深め、誇りと郷土愛を育み、竹富町としての一体感を醸成するとともに、海と共生できる本町の地域づくりや持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成する。		
(3) 事業内容	令和元年度から令和3年度までの3年計画であり、竹富町海洋教育基本計画の策定や竹富町海洋教育副読本の作成、各校へ海洋教育推進事業補助金の交付等を行い、海洋教育を推進する。		
(4) 成果目標	令和元年度の成果目標 ①竹富町海洋教育推進委員会の設置及び竹富町海洋教育基本計画の策定 ②竹富町海洋教育副読本編集委員会の設置及び定期的な開催 ③各校へ竹富町海洋教育推進事業補助金の交付		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 竹富町海洋教育推進委員会を設置し、全国で初となる竹富町海洋教育基本計画の策定や、令和2年度発行予定の竹富町海洋教育副読本作成の為、編集委員会を設置し、年間4回の委員会を開催した。また、海洋教育を推進する町内9校へ海洋教育補助金を交付し、各校において活発な海洋教育が実践された。その他、海洋教育研修会の実施や、全国海洋教育サミットで実践発表を行うなど多くの取り組みを実施することができた。		
	【課題等】 令和元年度においては、海洋教育推進校が13校中9校であった。令和2年度は13校全校が海洋教育推進校となり、竹富町としての一体感を醸成できるよう、各校への海洋教育基本計画の周知や研修会を行う必要がある。		
外部評価	A		
	・海に浮かぶ竹富町の島々。生活と密接した海洋についての教育を推進することは、時期を得たものだと思います。海洋教育推進委員会を設置し、竹富町海洋教育基本計画を策定、令和2年度に町内全校が推進校となり、足並みを揃え、「海に親しみ、海を知り、海を守り海を利用する学習」が推進されることは、素晴らしいことだと評価します。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ホームステイ事業	担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	3,044 千円	3,052 千円	0 千円
事業概要	町内に在学する中学2年・3年生を対象に、希望者を募り海外(米国ワシントン州シアトル)へ約3週間ホームステイを行い、異文化体験や英語の語学学習を行わせる。		
(1) 対 象	町内在学の中学2年・3年生を対象		
(2) 目 的	将来の日本を担う青少年が、異文化体験を肌で感じ外国語の学習と実践を通じて、真の世界平和樹立に貢献できる人材育成と国際感覚を身に付けさせることを理念に海外研修を実施する。		
(3) 事業内容	沖縄タイムス海外ホームステイ事業の中に組み込み、町内中学生を対象に募集を行い、面接試験を課した後、5名を23日間の日程で米国ワシントン州シアトルに派遣し、現地の受け入れファミリーの中でホームステイを行う。		
(4) 成果目標	研修終了後に提出する報告書や報告会において、異文化理解や語学(英語)の学習が身についているか。さらに、諸調査等で英語の平均正答率が伸びているかを判断する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①「英語でうまく話せなくてもジェスチャーを交えることで伝わることを知った」「言葉を間違えるより、何も発しないほうが相手には何も伝わらない。間違えることを恐れず、より多くの人とコミュニケーションをとっていきたい」など、コミュニケーション能力の向上につながった。 ②「日常的に英語で会話することで、英語で自分の気持ちや意見を伝える楽しさを知った」「簡単な英語や単語だけでも理解してもらえたことが自信につながった」「外国人観光客に、自分の分かる言葉で道案内や手助けをしたい」など、英語に対する興味・関心の向上につながった。 ③「多くの食品がアメリカンサイズで、今まで見てきたサイズに比べてはるかに大きくて驚いた」「アメリカの歴史を学ぶ機会も多くあり、特に日系アメリカ人のことを多く学んだ」「与えられた課題を自分達で調べ、意見を出し合いながら進める授業スタイルに驚いた」など、日本や沖縄の文化・歴史との違いに触れる機会になった。 ④「将来の夢は、世界中を旅してその国の文化を吸収し、日本の文化や島の伝統を伝えること」「世界中の人と日本の架け橋になりたい」「国籍問わずいろんな人と英語でつながる仕事に就きたい」など、国際社会で生きる意欲の向上につながった。 ⑤中3学力調査において、参加者全員が県平均正答率を20ポイント以上上回り、英語力の向上につながった。		
	A	【課題等】 ①派遣人数増員(5名)の継続。	
外部評価	・ホームステイを終えてきた生徒の声から、本事業の目的を十分に達成していることが伺える。思春期の多感な時期に生活習慣の異なる他国で生活を送る体験は、最高の生きた学習である。今後とも本事業は、長期的に継続して頂きたい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学力向上推進	担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	1,471 千円	1,504 千円	1,747 千円
事業概要	町内を9つの地区に分け、各公民館長を中心とした学力向上推進委員会を設置し、学校・家庭・地域・行政が連携して、子ども達の「生きる力」を育み、将来に夢を持ち目標を立て努力し、社会の創り手となる人材育成を推進する。		
(1)対象	幼児・児童・生徒、教職員、PTA、地域		
(2)目的	学校、家庭、地域、行政が一体となって、幼児・児童・生徒一人ひとりに「生きる力」につながる「確かな学力」の向上を図る取組みを推進する。		
(3)事業内容	1.町学力向上推進委員会総会及び実践報告会 2.各地区学力向上推進委員会総会及び実践報告会 3.教育講演会 4.標準学力検査、中3実力テスト実施 5.授業力向上訪問等での指導助言		
(4)成果目標	①竹富町学力向上推進要項に基づき、「ばいぬ島っ子プラン2019年度版」を推進し、9つの各推進委員会の取組充実を図る。 ②全国学力・学習状況調査・県学力到達度調査等で全国平均・県平均正答率を上回る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①9つの各地区において、公民館長を中心とした学力向上推進委員会総会・実践報告会が継続開催され、地域の物的資源・人的資源と結びついた地域総ぐるみの学力向上が推進された。 ②授業力向上訪問等の学校訪問において、授業についての指導助言を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図ることができた。 ③中3学力調査及び県学力到達度調査において、小学校・中学校ともに実施したすべての学年・教科で県平均正答率を上回った(令和元年度の学習状況を把握するための令和2年度全国学力・学習状況調査の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止)。 ④町内の中学3年生全員が高校受験で合格できた。		
	A	【課題等】 ①新学習指導要領全面実施に向けた教育課程編成の工夫改善 ②地域に開かれた教育課程(多様な人々とのつながりや地域・社会と結びついた授業づくりの見直し。主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実践の推進) ③自律・自立教育(自分で考え、自分で判断し、自分で行動することができる)の徹底	
外部評価	・各地区で地域をもうらした学力向上推進組織が構築されていることが、地域に根ざした学校経営につながり、全国学力・学習状況調査での大きな成果を上げることができた。 ・児童生徒のやる気、教師のやる気は、地域・保護者の励ましや教育行政の支援が必要であり、その関係がうまく行われていることが伺える。 ・恵まれた自然環境、社会環境の中で育まれた子たちへ、確かな学力を着実に身につけさせておりその取り組みは、高く評価できる。		
	A	・今後は、課題にあげてある「自律・自立教育」に力を入れ健やかな幼児・児童生徒の育成に期待する。	

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	英語サマースクール	担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	119 千円	0 千円	223 千円
事業概要	外国語に興味のある中学2・3年生を参加対象とし、英語学習の活動を中心としたプログラムを編成・実施。1泊2日の間は基本、オールイングリッシュで様々な活動に参加し、ALTや各校の英語教諭の支援の下、英語に対する興味・関心やスキルの向上を図る。		
(1) 対 象	外国語に興味のある竹富町内中学2・3年生		
(2) 目 的	外国語に興味のある町内各中学校2・3年生が一堂に会し、積極的に英語で会話をし生活をする事で、英語に対する興味関心を高めるとともに英語によるコミュニケーション能力を高める。		
(3) 事業内容	プログラム(オールイングリッシュで活動) ・三色綱引き ・自己紹介交流活動 ・ピニャータ作り ・星講座 ・歌 ・クイズショー ・星空観察 ・班会議、班長会議 ・島文化交流 ・ピニャータ鑑賞 ・ピニャータ割り		
(4) 成果目標	①島外の同級生と交流を持たせることによって、コミュニケーション能力を育成する。 ②言語活動を通して、英語に興味を持たせ、使うことの楽しさを味わわせる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 7月31日で前任のALT2名(JETプログラムによる外国語指導助手)が任期終了となり、8月1日付けで新規ALTとの契約となったため、本事業の準備期間等を考慮し中止とした。		
	【課題等】 JETプログラムによるALTの任用期間が8月～3月(前半任期)、4月～7月(後半任期)となっているため、新規ALT来日の年の開催時期や各中学校英語教諭との連携など、本事業の持ち方について検討する必要がある。		
C			
外部評価	・ALTの在任期間終了は把握できることであり、それを想定した取り組みを行うことが必要である。中止にしたことは、本事業年度に在籍した生徒にとっては、学習機会を失い大きなマイナスとなった。今後このようなことが無いよう担当者の取り組みに期待する。		
C			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	小学校集団宿泊学習		担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額	
	282 千円	318 千円	419 千円	
事業概要	21世紀を担う竹富町の子どもたちが、生まれ育った島をじっくり見つめ直し、郷土を誇ろうとする姿勢の育成を推進する。			
(1) 対 象	竹富町内小学校5年生			
(2) 目 的	①恵まれた自然の中でのびのびと過ごし、周りの草木や小動物等にふれあい親しむ。 ②竹富町内の小学5年生が寝食を共にすることによって、友人を増やし友情を深め合う。 ③お互いの島の様子や竹富町の様子を知り、郷土に対する理解を深める。			
(3) 事業内容	①集会活動(オリエンテーション、レクリエーション、班会議、平和学習) ②体験活動(カヌー体験、野生動物保護センター見学、星空観察)			
(4) 成果目標	①島外の同級生と交流を持たせることによって、コミュニケーション能力を育成する。 ②体験活動を通して、道徳観・正義感を育成するとともに、生きる力を身につけさせる。 ③平和学習を通して、命の尊さについて理解を深める。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ①少人数の各離島の児童にとって、大勢の同学年の児童と寝食を共にし交流する貴重な機会となった。 ②自分たちの学校や地域の様子を発表しあうことにより、お互いの島の様子や竹富町の様子を知ることができた。 ③様々なプログラムにより、友情の輪を広げ、西表島の大自然に親しむ機会となった。			
	【課題等】 ①2日目の朝食時間が予定通り進まず待ち時間が長かった。その時間を利用して係以外は清掃をするなど日程を調整する必要がある。 ②星空観察は、雨天・曇天の場合の代替プログラムを事前に講師と調整する必要がある。			
A				
外部評価	・各島々で学んでいるが、5年生になると一堂に会し寝食を共に、互いの地域や学校生活の様子を発表したり、自然体験活動をとうして友情の輪を広げ、竹富町の一員であることを自覚する良い機会である。 ・少人数で学校生活を送っている児童にとって、自己の考えや意見を大勢の前で発表したり、認めてもらう体験ができる宿泊学習は、今後とも継続、充実発展させるべき事業である。 ・交流センターのもつ価値は、今後、自然体験、社会体験、生活体験を充実させるためにも必要不可欠な施設である。そのために人的、物的にも充実した施設づくりに努めていただきたい。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ICT支援員派遣事業		担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額	
	4,752 千円	4,452 千円	9,141 千円	
事業概要	学校現場において、教育ICT機器の効果的な授業活用や日常的に発生する機器の不具合等の問題に迅速に対応することが望まれており、十分な知識と対応力をもつICT支援員を町内の各小中学校へ派遣する。			
(1) 対 象	竹富町内全小中学校			
(2) 目 的	児童生徒の学習意欲等の向上を目指し、教育用PC・電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用した分かりやすい授業を実現するため、竹富町内の各小中学校へICT支援員を派遣する。			
(3) 事業内容	各小中学校へICT支援員を派遣し、以下の業務を行う。 ①ICT機器のメンテナンスや、管理・運用に関する助言 ②ICT機器に関する教員向けの研修会の実施 ③ICT機器の活用実績の集計、分析及び教育委員会への定期的な報告等			
(4) 成果目標	①各校へ月に1回以上のICT支援員派遣 ②各校における教育ICT機器の適切な管理・運用 ③情報モラルの指導・助言			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 令和元年度において、これまで財源として活用した沖縄振興特別推進交付金の対象外となり、財源確保の為事業開始が例年より約2ヶ月程度遅れが発生し、7月からの派遣開始となった。 しかし、各校へ月に1回以上ICT支援員を派遣することができ、各校において日常的に発生する機器に関するトラブル対応や、授業へのICT機器の活用促進に向けた教員向けの研修会や個別指導などを精力的に実施し、教員のICT機器に関する習熟度は向上したと感じる。			
	【課題等】 令和2年度にはGIGAスクール構想(1人1台端末整備)の実現も見込まれ、教育現場におけるICT支援員の需要は高まることが想定される。令和元年度においては、竹富町内13校を1人のICT支援員で対応していたが、増員することも視野に事業の継続に向けて、財源や人材の確保に向けて取り組む必要がある。			
外部評価	・1人のICT支援員で、各島々を回り各校での機器トラブル対応に頑張っていることは、高く評価します。 ・内部評価(課題)にもあるようにGIGAスクール構想(1人1台端末整備)の実現も見込まれている。このことから、今後ICT支援員の増員も視野に検討をお願い致します。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	9,899 千円	8,819 千円	17,578 千円
事業概要	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮の運営を行う。		
(1) 対 象	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮へ入寮する児童生徒(小4～中3)		
(2) 目 的	学校の存続が危ぶまれる鳩間島において、留学を支援する鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮を運営し、留学生を受け入れることで安定的に児童生徒を確保すると共に、地域の活性化を図る。		
(3) 事業内容	①寮監の雇用(地域おこし協力隊) ②留学生の受入(定員8名) ③寮監や留学生による地域活性化(地域行事等への積極的な参加)		
(4) 成果目標	留学生の受け入れ(定員8名)		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 つばさ寮運営2年目となり、前年の4名を上回る7名の留学生を受け入れることができた。また、前年に引き続き、寮監として地域おこし協力隊を任用し、留学生や寮監が鳩間島の地域行事等に積極的に参加するなど、地域の活性化を図ることができた。また、留学生においても様々な体験学習を通して大きく成長し、鳩間島を巣立っていった。		
	【課題等】 留学生の受け入れについては、定員8名に迫る7名を受け入れることができ、つばさ寮や学校、地域が活気付いたと感じた。 寮監の雇用については、平成30年度、令和元年度と地域おこし協力隊を活用し、2名を雇用していたが、寮監2名でつばさ寮の運営をするには負担が多いため、地域人材を活用した寮監の増員を検討する必要がある。		
外部評価	・つばさ寮の定員8名に迫る7名の留学生を受け入れていることは、本事業の目的を十分に達成しており、高く評価します。 ・内部評価における課題については、つばさ寮の健全な運営につながるよう行政の理解と支援をお願いします。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	幼稚園預かり保育		担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額	
	7,534 千円	8,044 千円	13,375 千円	
事業概要	幼稚園教育時間終了後、幼稚園管理下において希望する在園児を預かり保育することにより、幼児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育て支援を図る。			
(1)対象	幼稚園教育時間終了後、家庭内保育が困難な幼児(4歳、5歳)			
(2)目的	幼児の心身の健全な発達及び保護者の子育て支援			
(3)事業内容	幼稚園教育時間終了後から午後5時までとし、また、夏季休業時は、午前8時30分から午後5時までの預かりを実施。			
(4)成果目標	保護者のニーズにあった保育を推進する。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 共働きで、自営業を行っている家庭が多く、申し込みが増えており預かり保育の需要が増加傾向にある。 ② 保育料無償化により無料で利用できるようになったことで、保護者の負担が減った。			
	B	【課題等】 ① 預かり保育希望者の増加に伴い、保育者の人材が必要となるが人材確保が厳しい。 ② 保育料無償化に伴い職員の資質向上が求められる中、竹富町においては預かり保育を対象とした研修が無いので、今後研修会開催が必要。		
外部評価	・国は、幼稚園を認定こども保育園に移行し1日保育を進めているが、竹富町では、幼稚園教育の重要性を捉えて、幼稚園教育のあと午後の預かり保育を実践している。このことは高く評価します。 ・幼稚園教諭が、午後の預かり保育を担当することは望ましくなく、預かり担当者を採用し町外の研修会に参加させることが望ましいと思う。			
	B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	特別支援教育支援員配置事業	担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	5,136 千円	5,504 千円	15,764 千円
事業概要	町内幼稚園・小学校・中学校に特別支援教育に係る支援員を配置する。 配置校は、はてるま幼、うえはら幼、黒島小、上原小、西表小、小浜中に配置する。		
(1)対象	支援員の支援を要する町内の児童・生徒・園児		
(2)目的	発達障害等により学習や生活面に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に対して特別支援教育支援員を配置し、児童生徒に応じた適切な支援を行う。		
(3)事業内容	①各園、小中学校からの支援員要請を受け、概ね1日6時間、週30時間の間で、学校長の指導の下、担当教員と協力し、対象園児児童生徒に学習支援を中心に学校生活上の介助等、適宜に支援を行う。 ②特別支援教育支援員研修会の実施		
(4)成果目標	各校の幼児児童生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮や支援の工夫による幼児児童生徒の学ぶ意欲や社会性の向上		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 支援員の配置により、支援が必要な園児・児童・生徒の適切な支援が行われ、落ち着いて学習に向かうことにつながっている。また、支援員配置により、担任の負担が軽減され、安定した学級経営が図られた。 ② 幼稚園・小中学校における特別支援教育に関する教職員の意識の向上にも繋がっており、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の理解と実践に繋がっている		
	【課題等】 ① 例年、特別支援教育支援員の人材の確保が難しい。 ② 支援を要する子の増加で支援員を雇入れ、個々への手厚い支援に繋がっている反面、財政面では予算増につながっている。		
外部評価	・特別支援教育支援員の配置により、一人ひとりの教育的ニーズにあった適切な教育的支援がなされインクルーシブ教育の実践に繋がっていることは、高く評価します。 ・「教育に待ったなし」、今後支援を要する子の増加にともない、支援員の増加も考えられます。行政の制度や予算確保の面から厳しい状況だと思われるが、幼児、児童生徒の教育に支障がでないようご配慮をお願いしたい。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	外国語指導助手(ALT)の配置	担当課	教育課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	13,991 千円	12,492 千円	13,653 千円
事業概要	町内幼・小・中学校にALTを配置することにより、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図ることを推進する。		
(1) 対 象	竹富町内の幼稚園、小学校、中学校の幼児、児童、生徒		
(2) 目 的	中学校の英語教育と国際理解教育の充実・推進を図るとともに、小学校での英語活動、国際理解教育の充実に資する。		
(3) 事業内容	1. 中学校における英語科授業の補助 2. 小学校及び幼稚園における外国語活動等の補助 3. 英語教材作成の補助及び英語能力関係事業などへの協力 4. 幼・小・中学校への特別活動及び課外活動への協力		
(4) 成果目標	①児童生徒に英語で意思の伝達ができる充足感を体験させる。 ②児童・生徒の英語学習に対する動機付けとする。 ③英語を使う能力を向上させるとともに、コミュニケーション能力を身につけさせる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ALTの指導法を統一するため、派遣担当校を固定化した。年度末アンケートからは「ALTとのスピーチや会話の中で、コミュニケーションのとり方や話の進め方が分かってよかった」や「英語のコミュニケーション力、やり取りする力がついた」と回答する児童生徒もあり、コミュニケーション力の向上が伺える記述が見られた。また、外国語への興味・関心が高まったかの問いについては、各年代「高まった、やや高まった」の回答が100%だった。		
	【課題等】 ALTの指導力向上及び各学校担当教諭との連携。		
外部評価	・小学校から英語教育が始まり、今後は、コミュニケーション手段として会話力を高めることが求められています。ALTの活用は、内部評価でもあるように、児童生徒の興味関心を高め生きた英語に触れ、英語でのコミュニケーション能力を着実につけている。数少ないALTを町内のすべての学校で有効活用し、内部評価の課題解決を図り高い成果を期待します。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校給食担当者研修会	担当課	総務課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	181 千円	213 千円	407 千円
事業概要	食事は健康の保持・増進、疾病予防の基本であり、食事づくりに携わる者の役割は大きい。衛生管理対策の徹底等、調理員の業務の再認識及び再確認をし、より良い給食業務の推進を図る。		
(1) 対 象	町内学校給食調理従事者等		
(2) 目 的	給食業務に携わる職員等を対象に衛生管理について研修会を行い、調理員間の交流及び情報共有を図る。		
(3) 事業内容	学校の夏期休業期間を利用し、沖縄県環境科学センターより講師を招き、衛生管理等についての研修会を行う。		
(4) 成果目標	調理施設における衛生管理・食中毒対策について、研修会を通して再確認、再認識をし、安心安全な給食の提供を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 夏休み等の長期休暇を利用し、石垣にて「衛生管理について」の研修会を開催している。本町では単独調理場、共同調理場が数箇所あり、各調理員等の交流を行うことが難しいが、この研修会を通し職員同士の親睦も深まり、それぞれの問題解決につながった。		
	【課題等】 今後も研修の場、情報共有の場を増やす必要があると考える。		
外部評価	・町内の児童生徒の健やかな成長を育むためにも、調理に携わる者の衛生管理や調理技術等への認識を高める研修を夏季休業中に実践し、職員間の交流を行っていることは、高く評価します。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町児童・生徒の心と体を育む支援事業(沖縄振興特別推進交付金)		担当課	総務課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額	
	5,628 千円	4,393 千円	5,563 千円	
事業概要	竹富町の児童生徒の大会等への参加に係る派遣費について、交付要綱にもとづき補助金として交付する。			
(1) 対 象	竹富町立小中学校に在籍する児童生徒			
(2) 目 的	児童生徒のスポーツ等の各種大会等への派遣費を補助し、保護者の負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成に寄与し、沖縄本島等と離島の格差是正を図る。			
(3) 事業内容	竹富町立小中学校の児童生徒の大会等への派遣にかかる経費のうち、船賃(実費)・宿泊費(上限あり)・航空賃(上限あり)を要綱にもとづき補助金として交付する。			
(4) 成果目標	町外等派遣に係る保護者負担を軽減するとともに、大会等参加により他島の児童生徒との交流や島内よりも高いレベルの競技者との試合等の町内ではできない経験をすることで、子どもたちの心と体の健やかな育成を促す。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 本事業については、継続的に実施することにより学校・団体・個人にも周知され、大会・コンクール等への積極的な参加や好成績(八重山代表として県大会及び沖縄選抜メンバーで県外への派遣等)を残す児童生徒の活躍も年々増えてきた。学校や保護者への成果指標アンケートでも、95%以上が「町内ではできない経験をすることができ」また「それによって刺激を受け、成長することができた」と回答が得られている。			
	A	【課題等】 - 代表選抜や、八重山地区大会での勝利、また天候その他による大会の中止等、予測がつきにくい要素も多くあるので、現状に合わせ柔軟な予算の増減や配分が必要とされる。 - 申請や実績報告の書類手続きに不慣れだったり煩雑な部分が多く、記載漏れや間違いが見受けられるので、誰が見てもわかりやすいような様式・案内の作成に取り組みたい。 - 選抜メンバーの町外での合同練習も対象としてほしいという声が多数あり、対象経費を検討し必要に応じて見直していきたい。		
外部評価	- 町内の児童生徒個々人が有する能力を伸ばしてやるためには、離島のハンディーである交通費等を補助してもらう本事業は、すばらしい。高く評価します。 - 内部評価おける課題については、関係部署の柔軟な対応をお願いしたい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	離島高校生修学支援事業 (離島高校寮生修学援助奨励事業)		担当課	総務課
事業費	30年度実績額		R1年度実績額	
	(修学支援)	13,557 千円	(修学支援)	12,815 千円
	(寮生)	6,595 千円	(寮生)	7,227 千円
	(合計)	20,152 千円	(合計)	20,042 千円
R2年度予算額				
(修学支援)	16,170 千円	(寮生)	7,590 千円	
(合計)	23,760 千円			
事業概要	高等学校教育の円滑な修学にあたり、通学に要する交通費、及び居住費を助成する。			
(1) 対 象	保護者が本町に住所を有し且つ在住しており、その対象となる生徒が町立中学校を卒業し高等学校に修学している者			
(2) 目 的	保護者の経済的負担の軽減、教育の機会均等により地域社会に有為な人材を図るため、通学費等の一部を補助金として交付する。			
(3) 事業内容	○修学支援： 通学に要する経費、及び居住費(アパート、下宿、寮費等) 上限額24万円を補助。(補助対象事業： 国庫1/2、県費1/4、町1/4(起債)) ○寮費： 修学支援費の上限24万円に満たない差額分を、補助金として交付する。			
(4) 成果目標	高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等と地域社会に有為な人材を育成を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 年間3回の申請時期を設け、生徒1人あたり24万円(上限)を補助することで、高校未設置離島における保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等が図られた。また、上限額に満たない差額分について、離島高校寮生修学援助奨励金交付事業で補助金として交付することで、寮生の修学を援助し奨励した。			
	【課題等】 ・対象となっているにも関わらず申請のない生徒(保護者)がいることが残念に感じる。対象者に案内文書を郵送しているが、さらなる周知の方法を再度検討する必要がある。			
A				
外部評価	・事業目的、内容から、本事業はすばらしい。高く評価できる。 ・町内の多くの生徒が活用し、自己実現にむけ勉学に励むことを期待する。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ふるさと応援奨学金	担当課	総務課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	1,800 千円	1,800 千円	3,000 千円
事業概要	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す方の修学に必要な資金を支給する。		
(1) 対 象	竹富町に1年以上住所を有する者の子、または扶養にある者。		
(2) 目 的	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す方の修学に必要な資金を支給する。		
(3) 事業内容	奨学金を給付する期間は、正規の終業期間とし、月額50,000円とする。就職する期間については、最低、正規の修業期間の2倍の期間とする。		
(4) 成果目標	専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す方の修学に必要な資金を支給することで、その人材育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 平成30年度は3名(50,000円×12ヶ月=600,000円×3名=1,800,000円)の対象者へ支給を実施しているが、令和元(平成31)年度については、申請する方がいなかった。令和2年度は、3名の対象者へ支給を予定している。		
	【課題等】 支給要項の見直しを含め、周知方法をさらに改める必要があり、次年度以降に対応したい。		
外部評価	・人材育成、人材確保を考えると素晴らしい事業である。 ・将来竹富町では、どのような資格保持者を必要とし奨学金を支給する等々を中学校へ進路指導資料として配布すれば、その先の高校、大学への進路選択に役立つのでは？		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	放課後子ども教室委託事業		担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額		R1年度実績額	
	901 千円		882 千円	
事業概要	放課後等に学校の施設(余裕教室・体育館等)を利用して、子どもたちが安全かつ安心して活動できる拠点を設け、地域住民の参画を得て、学習活動や様々な体験・交流活動を通して地域社会の中で、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。			
(1)対象	教室を委託設置した校区内の小中学生を対象			
(2)目的	放課後の子どもたちの、安全で健やかな活動場所の確保を図る。			
(3)事業内容	【令和元年度実施団体名】 ①黒島小中学校(黒潮っ子放課後子ども教室) ②古見小学校(古見っ子放課後子ども教室) ③竹富小中学校(こぼし放課後子ども教室) ④小浜小中学校(まいふなっ子放課後子ども教室) ※県補助＝4教室			
(4)成果目標	・地域の方々の協力を得て、学習活動、文化、スポーツ活動に取り組むことにより、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを推進する。 ・学校・家庭・地域による共同の取組により、「地域の子どもは地域で育てる」との環境及び意識の向上を図る。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 子どもたちが放課後を安全で有意義に過ごせるように学校・地域が協力し、教科の復習、予習、伝統芸能の習得、体験活動、スポーツ等を行っており、ボランティアの方々や地域の住民が講師として参加することにより、地域との連携及びコミュニケーションが図られている。 ② 令和元年度は、4校(黒島小中学校・古見小学校・竹富小中学校・小浜小中学校)で実施。			
	A	【課題等】 ① 教育活動サポーター及びボランティアの研修や情報交換を実施しながら、地域協力者の意識高揚に努める必要がある。 ② 竹富町子ども・子育て支援事業計画では、放課後の子どもの居場所づくりに対する方針について、放課後子ども教室の取り組みを充実することで、放課後児童クラブ(放課後児童健全育成事業)を補完するとしていることから各地区で取り組むことができる体制を確保する必要がある。		
外部評価	・ボランティア等の人材確保、資質向上に事業費を有効活用していただきたい。 ・地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力育成や人格形成につながる貴重な事業だと期待している。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	生涯学習委託事業(社会教育学級)	担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	令和2年度予算額
	574 千円	840 千円	1,050 千円
事業概要	町民の生涯にわたる学習の機会を充実するため、委託事業者が社会教育事業を開設し、運営に必要な経費の定額を支給する。		
(1)対象	町民(町内の社会教育関係団体)		
(2)目的	青年学級・婦人学級・家庭教育学級・成人講座を各種団体へ委託し、生涯学習の機会を提供する。		
(3)事業内容	【令和元年度実施学級及び団体名】= 5教室 (青年学級)=2教室 ・西表青年会(カマイ学級) ・細崎公民館青年部(細崎ふるさと創生学級) (成人大学学級)=3教室 ・祖納公民館(祖納公民館シンブレイ学級) ・小浜商工観光協会(小浜ちゅらさん学級) ・黒島診療所(クロシマウインドウボクジョウ学級)		
(4)成果目標	・それぞれの講座及び教室終了後、地域のリーダーとして生涯学習の実践者となる。 ・地域において学習の成果をさらに広めていく。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 生涯学習の場として、各教室がそれぞれ目標をもった計画を立て、十分な活動ができている。学習の場をとおり、各年齢層との繋がりができたことで、地域の歴史・文化、伝統、芸能の習得・継承に大きく貢献できている。今年度は県指定有形文化財「新盛家」の茅葺吹き替え事業に併せて伝統的な工法を学ぶ教室が開催されたり、地域の診療所が住民と共に健康スポーツ教室を開催する等多彩な社会教育学級が開催され地域活性化に繋がった。		
	A	【課題等】 ・書類手続き等の不慣れから申請をためらう団体もあるため、資料整理指導や事業説明など、個別相談に応じる体制を強化したい ・当初計画から想定外の支出が見込まれるとの相談があったことから、急遽予算の範囲内で委託料の増額の対応をとった。地域の声に応えながら学級の事業内容を精査し一律定額の見直しも検討する必要がある。	
外部評価	A	・各地域の該当する団体へのよびかけと、書類手続きの簡素化に努力していただきたい。 ・各種団体の活性化が生き生きとした地域を生み出すので、本事業の充実を更に期待する。	

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	社会教育団体育成補助事業	担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	2,009 千円	2,308 千円	2,695 千円
事業概要	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助。		
(1)対象	各種社会教育団体(公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等)		
(2)目的	各種団体における学習機会の提供と自主的な活動を支援し、豊かな人間性と団体の資質向上を図ると共に地区の活性化を目指す。		
(3)事業内容	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助		
(4)成果目標	各種団体への活動支援を目的とした育成補助を行い、団体の資質向上と指導者の育成を図り、各種団体の活性化を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等への活動補助として交付することにより、リーダー研修、研究大会、団体の活動資金として活用され、各種団体の活動が活発になり、地域貢献や人材育成へ活かされている。		
	【課題等】 各種団体の取組みについて、社会教育委員又は、社会教育指導員の積極的な指導助言等を行い、活発な活動を支援するための環境づくりを継続的に努めていきたい。		
外部評価	A		
	・今後とも地域の人材育成と各団体の資質の向上をめざし、本事業を継続発展させていきたい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	球技大会	担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	850 千円	850 千円	0 千円
事業概要	お年寄りから青年層まで、気軽に参加できる競技種目を設けることにより、スポーツを通して、町民の健康増進と交流の機会を創出する。		
(1)対象	・竹富町に住民登録を有する者。 ・アマチュア競技者。		
(2)目的	町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し開催する。		
(3)事業内容	・ソフトボール ・ソフトバレーボール ・グラウンドゴルフ		
(4)成果目標	大原中学校を主会場に三会場で実施し、町内の各公民館から選手及び、応援団が参加することにより、スポーツを通して町民相互の親睦を深める機会とする。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し毎年開かれている事業である。町民が一堂に会する機会が少ない本町に於いて、毎年開催している本球技大会が、スポーツを通して町民相互の交流を深める良い機会となっている。		
	【課題等】 ① 毎年競技力は向上し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図ることは浸透してきたが、高齢者をはじめ、より多くの町民が参加できるような種目変更の検討が必要とされる。		
外部評価	・課題解決に努力し、町民の交流の場として今後とも本事業を継続していただきたい。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	やまねこマラソン大会	担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	4,900 千円	3,800 千円	2,500 千円
事業概要	西表島特有の大自然を活かしたマラソンコースを設定し、町民をはじめ全国からのジョガーと沿道の地域住民ボランティアの応援・声援で大会を盛り上げる。また、レース後は「ふれあいパーティー」を企画し、参加者、大会関係者スタッフ、住民との交流の機会を創出する。		
(1)対象	・ 3km(八重山郡内の中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(2)目的	日頃から健康ジョギングで体力づくりに励んでいるスポーツ愛好者を迎え、「西表島の大自然とのふれあい」を提唱し、さわやかな汗で健康と体力増進及び青少年の健全育成を図るとともに、スポーツイベントによって交流の輪を広げ、地域の活性化を図り本町のさらなる発展を目指す。		
(3)事業内容	・ 3km(中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女)		
(4)成果目標	今回で第27回を数え、全国的にも知名度の高い大会である。出場選手に満足してもらえるよう、コースの安全性を含め職員、地域ボランティアを動員して大会の運営にあたる。また、大会に欠かせない、ふれあいパーティーの企画も各種団体との連携により、地域活性化が図られる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 今大会で27回を数え、元号が「令和」に変わって初となる記念大会となり、本町に於ける一大スポーツイベントとなっている。1,363名の参加申込があり、出場者1,173名、完走者1,154名、完走率98.4%という非常に高い完走率を記録した。競技後のふれあいパーティーも好評で、選手だけでなく子供から高齢者まで大勢の人が楽しめるイベントである。 ② 本大会は、土曜日開催の大会と事前から町のホームページやマラソンガイド等広く紹介するなど、県内外の参加者や宿泊需要は大きく地域の経済効果にも寄与している。		
	A	【課題等】 ① 毎年、県内外から多くの参加があるものの、会場及び宿泊施設のキャパシティに限界がある。また、冬場の開催で、船便が大原航路となる場合があることから、選手の移動をいかにスムーズに行えるかに苦慮している。	
外部評価	・八重山を代表する大会として定着していることは高く評価できる。今後も安全安心を第一に創意工夫のもと継続していただきたい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会	担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円
事業概要	島の未来を担う少年少女たちが野球を通して幅広い”交流”をはかり、友情を育むとともに夢と希望と勇気をもつことの大切さの実感、郷土を思う誇りと心を醸成し、島の活性化、人づくりに資する。		
(1)対象	竹富町立中学校(代表選抜)		
(2)目的	地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流を図ることにより、新たな人間形成や健全な青少年の育成を促進することで、将来を通じた離島地域の振興に寄与することを目的とする。		
(3)事業内容	野球大会・交流試合・さよならパーティー		
(4)成果目標	離島甲子園に出場できることに感謝の気持ちを忘れず、大好きな野球ができる喜びを感じながら、元気よく伸び伸びプレーし、離島中学生との交流の輪を広げる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① チーム名「西表ヤマネコ・ティダボーイズ」 今大会は、長崎県対馬市で開催され、本町中学生選抜チームが参加した。5度目の出場にして、初めて選手枠の18名の部員がそろうことができた。離島甲子園に参加することにより、生徒の部活動への関心が高まったように感じている。念願の初勝利を目指すも、惜しくも勝利はできなかったが、日頃味わうことのできない緊張感のなか、試合に取り組めた。試合後には、プロ野球OB会による「野球教室」や「さよならパーティー」が行われ、プロのレベルを肌で感じ、また他チームとの交流も図られ、新たな体験となり財産となった。		
	A	【課題等】 ① 竹富町代表として出場しているが、現状は大原中と船浦中の2校のみが参加している。他の離島でも野球に興味はあるが、野球をする環境がない中学校もある。そのような生徒も参加できるような取り組みが必要である。	
外部評価	・野球を通して全国の離島中学生と交流できたことは、勝敗はもとより大きな成果が得られたものと思われる。 ・離島の学校は、個人競技の部活動が多いのでその実態に応じた競技の全国離島交流大会を実現させて欲しい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	文化財の美化・保全（一括交付金）	担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	2,789 千円	3,189 千円	3,260 千円
事業概要	指定文化財の美化・保全		
(1) 対 象	竹富町内の国指定文化財、沖縄県指定文化財、竹富町指定文化財		
(2) 目 的	指定文化財の利活用を図るために美化・保全を行う。		
(3) 事業内容	文化財の指定地において、雑草や雑木の除去作業等の美化・保全を行い、見学者が利用しやすい環境を整備する。 新たに新城地区を追加し事業を実施。		
(4) 成果目標	地域の文化財愛護の意識高揚が期待されるとともに、指定文化財等が生涯学習の場として活用されることや、来訪する観光客の満足度が高まることを期待する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 沖縄振興特別交付金事業により、町内各地に所在する文化財の美化・保全事業として清掃を行った。 ○ 竹富島⇒小城盛、西棧橋、蔵元跡、新里村、ミーナ井戸、トゥンナ井戸 ○ 西表祖納⇒大竹祖納堂儀佐屋敷跡、慶来慶田城翁屋敷跡、大平井戸 ○ 鳩間⇒東井戸(アンヌカー)、鳩間中森 ○ 波照間⇒下田原城跡、シムスケー、コート盛 ○ 新城⇒タカニク、ターヌホー道、クイヌパナ、クイヌパナ道		
	【課題等】 ① 地域公民館との委託契約としているが、場合によっては高所作業車などの特殊機材が必要なため民間事業者と契約を交わしている。地域公民館へ委託できるよう作業内容などの見直しを検討したい。		
外部評価	・課題を解決し、町内の文化財一つ一つにスポットを当てていただきたい。先人たちの生きた証を通してそのつながりを実感し、地域への貢献や後世への思いがより一層高められるものと期待する。		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	埋蔵文化財の保護		担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額	
	498 千円	638 千円	369 千円	
事業概要	埋蔵文化財の調査及び諸開発に伴う事前調整や指導			
(1) 対 象	周知の埋蔵文化財及び不時発見の埋蔵文化財			
(2) 目 的	地中に刻み込まれた文化財である埋蔵文化財は、諸開発によって失われるおそれが高いため、分布状況や保存状況等の情報を把握しておくために必要な調査等を行う。			
(3) 事業内容	諸開発事業に伴う埋蔵文化財の有無確認調査や、必要な措置がある場合はその指導を行ったり、記録保存の必要な埋蔵文化財や重要な遺跡については、発掘調査を行うことによってその埋蔵文化財の保護を図る。			
(4) 成果目標	埋蔵文化財の保護が後手にまわらないよう、適時対応するとともに、これまでの調査成果資料の整理を進める。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成 果】 ① 周知埋蔵文化財包蔵地の試掘調査を実施した。(大泊浜貝塚) ② 周知埋蔵文化財包蔵地の浸食状況調査を実施した。(鹿川ウブド一遺跡)			
	【課題等】 ① 資料整理室がないため出土品等の遺物がコンテナ内で保管されている状態である。 ② 専門員がいないため調査等に遅れがある。現在は他課職員の専門員資格保持者へ派遣依頼をし対応している。 ③ 発掘調査及び出土品等の資料整理、報告書作成についても依然追いつかない状況が続いており、大きな課題となっている。			
外部評価	・埋蔵文化財の発掘と保全保存への重要な事業だと考える。専門職員の確保と今後、一層の取り組みに期待する。			
	B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統的建造物群保存地区の景観保全	担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額
	20,387 千円	15,464 千円	32,336 千円
事業概要	伝統的建造物群保存地区における修理や修景及び現状変更行為に対する許可や指導等		
(1) 対 象	竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区		
(2) 目 的	重要伝統的建造物群保存地区(昭和62年4月28日)の選定を受けた竹富島の集落景観を、その価値を維持するために必要な事業を行う。		
(3) 事業内容	竹富島の集落景観を構成する建造物等のうち、歴史的な景観価値を有する保存物件の保存修理工事の補助や、修景が必要な物件の修景工事を補助することによって、集落景観の保全を図る。		
(4) 成果目標	老朽化が進む保存物件の修理を進めるとともに、現状変更行為に対して適宜指導を行い、景観保全を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①竹富町重要伝統的建造物群保存地区・保存対策費補助事業として、屋根赤瓦葺き板壁張りの保存物件2件と5件(主屋1件、トーラ4件)の修景に係る補助金交付を行った。 ②年度内に2回の伝建審議会の開催を行うことができた。 ③台風の影響や経年劣化による保存物件の瓦ズレ等の修理の申請があった。		
	【課題等】 ①保存修理の必要な保存物件が多数残されているが、所有者本人の負担も大きい事が支障となっている。 ②台風や大雨などにより保存物件に被害があった場合でも国庫補助金申請から工事着工まで約2年が掛かる。2年の間、被害にあった物件を放置しておくことは、被害の拡大に繋がり、保存物件の消失にも繋がりがねないため、迅速な修理措置が必要である。国庫補助の補助金交付までの繋ぎとして、町独自の補助の仕組み等を検討する必要がある。		
B			
外部評価	・町独自の補助の在り方を検討していただき、景観保全向上に努めて欲しい。		
B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統文化活動の推進		担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額	
	2,750 千円	2,750 千円	2,750 千円	
事業概要	伝統文化の保存と振興を目的とした団体への支援			
(1) 対 象	竹富町民俗芸能連合保存会			
(2) 目 的	竹富町内の各島々で先人から受け継いだ民俗芸能等の伝統文化を、次の世代にも変わらぬ形で継承していくために、関係団体の支援等を行う。			
(3) 事業内容	講習会や、研修会、先進地の視察研修等によって後継者の育成を図るとともに、民俗芸能の発表会を開催し、伝統芸能の振興を図る。			
(4) 成果目標	竹富町内で伝承されてきた民俗芸能を次世代に受け継いでいくため、後継者の数と質の向上を目指す。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 竹富町民俗芸能連合保存会が主催する第18回デンサ節大会及び第25回竹富町古謡発表会開催補助と、団体の育成補助を行った。 ② 第18回デンサ節大会を西表上原のわいわいホールで開催した。各地区代表のほか、一般公募・役場代表26名の参加があり、400名を越す聴衆が訪れ、大盛況に終わった。幕間に上原小学校全児童によるデンサ節の斉唱とデンサ節を作った宮良里賢についての絵本「宮良里賢物語～デンサ節誕生のものがたり～」の贈呈があった。学校全体で地元発祥のデンサ節の継承に取り組んでおり、子供たちが地域の民俗芸能に親しんでいることが伺えた。 ③ 第25回竹富町古謡発表会では、各地域の保存会が船浮公民館に会して各地域の古謡を披露し、各保存会の親睦が図られた。			
	【課題等】 ① 成果②について、デンサ節大会は、町内での開催が一巡し、発祥地上原の開催となった。町内外から多くの聴衆が訪れ、関心の高さを窺い知ることができた。地域の活性化へも繋がるものと思われる。上原小学校全児童によるデンサ節の披露もあり、生まれ育った地区に伝わる民俗芸能を受け継ぐことで、豊かな心と地域に対する誇りを持つことができと思う。また、今後大会を長く継続して行くにあたり、運営方法や地域の受け入れ態勢等について検討していく必要がある。 ② 成果③について、古謡発表会では、島に古謡をよく知る年長者が少なく、年々謡える人が少なくなっているという声があり、継承者の確保を含め、どのように継承を図っていくのか課題が多い。特に、祭事で行うものではなく普段の生活で謡っていた古謡は、生活の変化とともに謡う機会が減っており、次世代へどのように継承していけばよいのかについて、各保存会が危機感を持っていることが報告されていた。各地区保存会が一同に会する機会は少ないが、このような発表会後に各地区の取組みや悩みを共有しあう場が必要であると感じる。また、事務局で記録している古謡発表会の映像や音声記録をDVDやCDへ変換し、保存会へ提供することも今後検討していく必要がある。			
外部評価	・先人から受け継がれた文化は、子供の頃から慣れ親しませることが重要だと考えられる。 ・内部評価の課題を前向きにとらえ対応していただきたい。			
	A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	芸術文化活動の振興		担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額		R2年度予算額
	6,590 千円	1 千円		1 千円
事業概要	芸術文化公演等の実施や芸術家の派遣			
(1) 対 象	町内の児童生徒、一般町民			
(2) 目 的	芸術文化に触れる機会の少ない町内の学校、公民館で公演を行い、児童生徒及び町民の感性を高める事に寄与する。			
(3) 事業内容	各種の派遣公演についての情報を町民や町内の小中学校へ周知し、希望のあった地区のホールや学校での公演を実施する。			
(4) 成果目標	学校からの希望に応じて実施する。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 *令和元(H31)年度は、国費・県費の事業のみ実施したため、町費の持出しがなかった。 ①令和元年度「文化芸術による子供の育成事業(芸術家巡回事業)」で、上原小学校(船浦中学校)合同開催で巡回公演の実施があった。 ②令和元年度沖縄県組踊等教育普及事業(組踊鑑賞会)として、鳩間小中学校で「執心鐘入」の組踊鑑賞会を行った。 ③令和元年度沖縄県組踊等教育普及事業(組踊ワークショップ)として、船浮小中学校・白浜小学校合同でワークショップを行った。			
	【課題等】 ①現在は、沖縄県や文化庁事業に応募をして採択された場合に、芸術家等の公演を行ってもらう形であるが、今後は竹富町独自の企画について検討が必要と思われる。 ②組踊鑑賞会では、学校体育館に舞台を作り、地元の方々も鑑賞できるよう、学校側から地域住民に声掛けをお願いした。地元の方々も、10名以上足を運んでくださり、子供たちと一緒に組踊を鑑賞した。 ③芸術文化を担当する先生により応募の有無が決まってしまうため、芸術鑑賞の機会がないまま卒業してしまう子ども達がいることが懸念される。多くの学校で鑑賞の機会を持てるように、先生方への啓発が必要である。 ④文化施設が限られており、芸術に触れる機会を各島均等に持つことが難しいため、文化庁事業等の公演や、組踊公演の際に地域住民への声かけをお願いするなど、学校とも協力をして幅広い芸術文化に触れる機会を設けられるように検討が必要である。			
	B			
外部評価	・プロの芸術家の作品、演奏等に触れることにより子供や町民の感性がより豊かになると期待できる。そのため、内部評価の課題を解決し、今後も本事業を進めていただきたい。			
	B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	シママニの普及推進事業		担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額		R2年度予算額
	0 千円	227 千円		284 千円
事業概要	竹富町シママニ発表会の開催			
(1) 対 象	町内の児童生徒、一般町民			
(2) 目 的	竹富町内各地区に残る貴重な文化遺産「シママニ」を保存継承し、各島々の違いを認め合い、各島の文化に対する興味を深める。			
(3) 事業内容	年1回各島持ち回りでシママニ発表会を行い、10回目を目途に発表内容を冊子にまとめて記録を残す。			
(4) 成果目標	各地区に残るシママニを後世に保存継承する			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価			
区分	評価の説明【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ①第1回竹富町シママニ発表会を竹富小中学校体育館で開催した。6地区の代表者が発表し、各島々に伝わるシママニを狂言やわらべ歌、劇等それぞれの方法で披露した。与那国島や沖縄本島からも視察に来るなど、盛況な発表会となった。			
	【課題等】 ①第1回目の開催であったため、手探りではあったが、地元公民館やシママニ普及推進部会の協力のもと、暖かみのある盛大な発表会となった。 ②年長者は島外にあり、地区内でシママニを話せる人がいないという理由で不参加の公民館が数か所あった。シママニの発表・記録という点で、郷友会を巻き込んでその地区のシママニを披露していただくことも必要だが、現在島に住んでいる方々にも、シママニに興味持ってもらい、シママニを伝承してもらえる取組を行う必要があると思う。 ③年長者の方々が元気なうちに、正しいシママニを記録しておく必要があるが、子供たちへの伝承も重要な課題である。地域で、積極的に取り組むことができるような働きかけを考えていきたい。			
A				
外部評価	・「シママニ」は、普段の生活の中から身に付くものなので、言語教育の一環として幼児期からの取り組みを希望する。その集大成が「発表会」である。第一回開催ができたことは高く評価できる。今後の取り組みと発展を大いに期待する。			
A				

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町史編集事業		担当課	社会文化課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額		R2年度予算額
	1,655 千円	4,394 千円		6,604 千円
事業概要	竹富町史「資料編」の発刊、『竹富町史だより』の発刊。			
(1)対象	竹富町民、一般人、研究者。			
(2)目的	竹富町の先人たちが築いてきた特色ある町の歴史や自然を島々の個性を際立たせて位置付けながら、編集・発刊を行うこと。それにより町民一人ひとりのみならず、竹富町の先人の顔を思い浮かべることができる親しみやすいものとする。これらが島のかけがえのない宝、共有財産として後世に引き継ぎ、豊かな町(島)づくり、人づくりに資することを目的とする。			
(3)事業内容	竹富町史刊行物の編集・発刊。			
(4)成果目標	地域を知るための基礎資料として親しまれ、かつ学術的にも信頼される町史編集事業。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 令和元年度竹富町史編集事業において、「島じま編」の基礎資料とすべく、『竹富町史 第11巻 資料編 新聞集成Ⅶ』を刊行することができた。本書は、1964年8月1日から1965年12月31日を対象に、八重山地元紙より竹富町に関する記事を網羅したもの。この刊行により、当時の竹富町の具体的な状況を知ることができる。今後、地域づくりの基礎資料としての活用が期待できる。 ② 『竹富町史だより』は町民を対象とした機関誌である。令和元年度は(第44・45合併号)を刊行、町内全戸に配布することができた。本号では、『竹富町史 第11巻 資料編 新聞集成Ⅶ』の発刊や、町史編集委員会および編集係の活動状況を周知することができた。その他、「竹富島のことわざ」「黒島に関する資料」などの基礎資料を作成し、提示できた。			
	B	【課題等】 ① 『竹富町 第11巻 資料編 新聞集成Ⅶ』について、当初予定していた収録記事数が多くなり過ぎ、最終的に1年分の記事を割愛することになった。それに伴って収録論文との整合性を整えるのに時間を要した。時代が下るとともに、記事数や文字数が多くなることを念頭に置き、見通しを立てて編集することを課題としたい。		
外部評価	・竹富町の各島々の個性と先人たちの、強く逞しく生き抜いた足跡を次世代にしっかりと残していただきたい。			
	B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校等施設の維持管理		担当課	総務課
事業費	30年度実績額	R1年度実績額	R2年度予算額	
	8,902 千円	13,822 千円	12,204 千円	
事業概要	学校施設等の修理・修繕及び維持管理上必要な施設の整備			
(1)対象	竹富町立幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場及び教員宿舎			
(2)目的	学校施設等の中には、経年劣化や自然災害等によって園児及び児童生徒の安全・安心が失われるおそれがあるため、修理や修繕等の整備を行い、学校環境の安全・安心を図る。			
(3)事業内容	学校施設等の現況を調査し、破損箇所や腐食した箇所を修理・修繕し、安全・安心な学校環境の維持・管理。			
(4)成果目標	年次的に学校施設等の修理・修繕等を行い、快適で安全・安心な学校環境の整備を進める。			
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価			
区分	評価の説明 【成果・課題等】			
内部評価	【成果】 ① 令和元年度においては、幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場・教員宿舎等、緊急的なものを優先し修理・修繕等を行ってきた。 ② 令和元年度国庫補助事業(危険改築、不適格改築工事)については、繰越事業となった波照間中学校校舎・施設改築工事は令和2年度中に完成予定である。 沖縄県学校環境改善事業交付金(沖縄振興公共投資交付金)においては、教員宿舎整備事業として、小浜中学校教員宿舎新築工事を行い完成した。防災機能強化事業(安全確保)として、船浮小学校フェンス設置工事を行い完成した。			
	B	① 多くの修理・修繕箇所の要望があり、予算を確保しながら学校環境の整備を図るとともに、本町公立学校施設整備事業長期計画を基に、安心・安全・快適な学校施設など教育環境の充実に努める必要がある。 ② 公共施設等管理計画に基づき、建物の長寿命化にむけた個別施設計画の策定に必要な情報の整理が急がれる。		
外部評価	・学校施設等の維持管理は、子ども達が安心安全快適な学習をする上で必要不可欠である。計画的な修理、修繕と災害等による突発的な修理、修繕にも対応し子どもたちの学習環境を常に整備していただきたい。			
	B			

令和元(平成31)年度 教育事務点検総合評価

■教育委員会の機能充実

総合評価 [B]	・教育委員会の機能は、全体的に良好である。 ・学校設置者として、教育行政の果たすべき役割を適正に行っている。 ・
1 教育委員会の概要 [A]	・教育長と委員(4名)で組織され合議制の実行機関として、諸課題解決に当たっている。 ・平成27年4月1日付けで「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、首長と教育委員会が協議・調整する「総合教育会議」が位置づけられている。
2 教育委員会の概要と会議の状況 [B]	・教育委員会は、奇数月の定例会(6回)と随時開催の臨時会(2回)が開催されている。また、教育委員会による自主研修行われている。 ・総合教育会議は、平成30年度、令和元年(平成31年)度において未開催である。次年度は、教育行政の方向性を共有し一致して執行にあたることを期待します。
3 教育委員会の情報収集状況 [A]	・教育委員会は、学校訪問や施設等の視察、事務局からの情報収集や専門知識収集のための研修会参加、他の教育委員会の情報収集及び課題解決の方向性模索のため教育委員会連合会、教育長協会などへ積極的に参加している。
4 教育委員会事務局の組織及び職員配置 [B]	・事務局は、課長3名、課長補佐3名、係等14名、再任用、臨時、ALTで10名の計30名で組織されている。 ・平成30年度に対し、係等が3名増えたが、再任用、臨時、ALTで3名減となるが、本務職員が増えたことは、組織の充実に一歩前進である。 ・事業によっては専門的な分野もあるので、その人材確保に努力していたきたい。
5 教育行政 [A]	・令和元年度の教育予算は、前年度予算から約4億近く減になっている。しかし、過去5年間では、昨年に続いて2位であり、教育に力を入れていることが伺える。 ・各課では、本年の事業を明確に掲げ、計画どおり業務遂行ができている。

■幼稚園・学校教育の充実

総合評価 [A]	・幼稚園教育の充実を図り、午後の預かり保育料を無償にするなど、保護者の負担軽減を図っている。 ・地域に見守られ地域の学校として学校経営がなされ、それを支援・援助する教育行政の働きが明確に見られる。 ・児童生徒の活躍も多岐にわたり、全国学力・学習状況調査では、小・中学校ともに全国平均を上回ることができた。これらのことは高く評価できる。 ・教育主要施策体系に基づき「ばいぬ島っ子プラン」の育成がなされている、今後とも事業予算を確保し、創造性あふれる事業を展開していただきたい。
------------	--

